

実地研修の概要

受入先センター：愛知県地域生活定着支援センター

実施日時：2024年11月5日～7日

実施内容：

I. 官民協働

行政・司法・福祉の連携体制を具体的に学び、地域の多機関連携を効果的に推進する方法を理解した。

II. 援助技術

刑務所出所者や特別調整対象者への支援会議に同席し、支援計画を整理・共有する実務を体験した。

III. 事務業務

支援記録や情報共有の仕組みを視察し、データ管理や報告体制の整備が支援の質を高めることを実感した。

実地研修の効果

研修を通じて学んだこと

既存制度を活用する視点の獲得

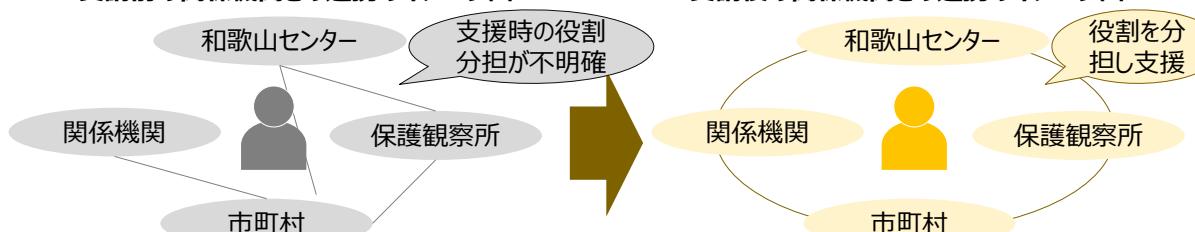
- 実地研修では、既存の制度やサービスを改めて整理し、それらを横断的につなげていくことの重要性を学んだ。縦割りになりがちな支援体制について、どの機関がどの段階で関わることができるのであらかじめ整理しておくことで、連携がより円滑になることを実感した。
- また、「待っていても連携の対象者には出会えない」という考え方に対する認識が深まり、支援が必要になってから対応するのではなく、センター自らが関係機関に出向き、平時から関係づくりを行うことで、支援が必要になりそうな段階での情報共有や相談につながることを学んだ。

研修受講後に行動に移したこと

連携の枠組みを整理

- 研修での学びを踏まえ、関係機関との関わり方を「説明する関係」から「協議する関係」へと転換することを意識している。
- 具体的には、県の障害福祉課と継続的に協議を重ね、地域課題や今後のネットワーク構築の方向性について意見交換している。
- 自立支援協議会などの既存の会議体についても、支援終了後の事後的な振り返りの場としてだけでなく、支援が必要になりそうな段階での事前相談や情報共有を行う場として関わっていくことが重要であると捉えるようになった。

受講前の関係機関との連携のイメージ図



センターの基本情報

- 職員数：常勤4名
- 職員の主な保有資格：社会福祉士、精神保健福祉士
- 運営主体：社会福祉法人 和歌山県福祉事業団
- 受託法人の強み：障害福祉の分野を中心に、児童福祉、高齢者福祉など、複数分野の事業を展開しており、こどもから高齢者まで切れ目なく支援に関わってきた実績を有している。
- 地域の特徴：人口の多い和歌山市は県内の他市町村と比較して社会資源が充実しており、多機関連携が図られている。一方で、県中部から南部は社会資源が不足していることや、多機関連携が課題である。

実地研修で印象に残っていることは？

- 実地研修では、自治体職員の話を通じて、官民それぞれが「できること」「できないこと」を整理したうえで、役割分担することの重要性を学びました。
- 市町村、センター、保護観察所などが、それぞれどの段階でどのように関わるかが明確になることで、支援の流れが整理され、結果として、支援対象者への支援が円滑に進んでいる事例が印象に残っています。

実地研修の受講後、行動に移したことは？

- 実地研修の受講後は、月例会議の場で、研修内容を資料とともに全職員へ共有し、今後、センターとして目指す方向性について話し合いました。その際、センター長から「研修での学びを具体的な行動に落とし込んだ方がよい」という提案があり、研修で得た気づきを整理する形でアクションプランを策定することになりました。
- アクションプランの策定にあたっては、和歌山センターの課題を整理したうえで、今後、重点的に強化すべき点を明確にしました。策定したアクションプランは職員間で共有し、人事異動があっても継続的に取り組むことができるよう、工夫しています。

実地研修の副次的な効果は？

- 移動中や待ち時間など、日程には組み込まれていない場面で、他県のセンター職員と日頃の支援や具体的なケースについて意見交換ができたことは、大きな学びとなりました。
- 普段は業務に追われ、他センターの取組を詳しく聞く機会が限られていますが、「このような場合はどう対応しているか」といった率直なやり取りができたことで、自身の支援を振り返るきっかけになりました。